

議 1 番 川 長 村 続きます。通告順位 4 番 議席番号 1 番 川村俊治議員。  
1 番 川村でございます。

町長 2 期目の所信表明に関して質問いたします。

町長は、7 月 31 日の臨時議会において、2 期目の町政運営に関する所信を表明されました。その中で述べられた第 5 次総合計画の二つ目のプロジェクトである「若者定住・子育て支援プロジェクト」について質問いたします。

5 次総で定める将来人口 1 万 1,000 人を維持するためには、東山北 1000 まちづくり基本計画を実現していくことが一番の近道だと思いますが、どのように考えますか。

小田原百貨店やコメリの進出で、地域に活気が出てきていると思うし、今後、丸山への企業進出や県道 721 号線の改良工事の進展によって、町が活性化してくることが期待できます。

このために、東山北駅周辺のインフラを整備することが水上地区などの計画の進展に寄与すると思いますが、進展状況はいかがですか。

J R 御殿場線の利活用推進により、I C カード読み取り機の設置や、運行本数の増加による利便性向上が定住対策には欠かせないと思いますが、今後どのような取り組みを行っていく考えですか。

J R への要望は、利用者にとって現実的で前向きなものにすべきだと思いますがいかがですか。

子育て支援・子供の教育環境の充実は大きな要素であり、山北の子育て支援センターは評判がよいと話を聞いています。一方、保育所に入所を希望する乳幼児が、全て入所できる環境を整備することが重要であると考えますが、環境は整っているかお尋ねします。以上です。

議 町 長 答弁願います。

長 村 それでは、川村俊治議員から、町長 2 期目の所信表明に関する御質問をいただきました。

初めに、1 点目の御質問の 5 次総で定める将来人口 2023 年 1 万 1,000 人を維持するためには、東山北 1000 まちづくり基本計画を実現していくことが一番の近道だと思いますが、どのように考えるかについてありますが、総合計画における人口フレームを維持するためには、総合的な定住対策が必要であることから、本町では平成 21 年度から山北町定住総合対策事業大綱を制定し、住宅、企業誘致、子育て支援、交通、買い物対策など、総合的な定住対策を推進し、山北駅北側定住促進住宅の建設、原耕地地区への大型商業施設の出店、平山や円山地区への企業進出など、一定の成果を上げているところではありますが、近年の急激な少子高齢化に伴う人口減少には、依然として歯どめがかかっている状況にあります。

さて、東山北 1000 まちづくり基本計画につきましては、定住総合対策

の重点プロジェクトとして、住宅、商業、道路、ネットワークづくりなど、官民一体となって推進し、原耕地、水上など、4つの重点地区を中心に、この地域に1,000人の人口を呼び込むことを目標として、平成23年3月に策定したものであります。このたびの原耕地地区における大型商業施設の立地については、地権者や地域の御理解、御協力の中で実現したものであり、本計画を後押しする大きな成果として、捉えているところであります。

今後はこの大型商業施設を東山北駅周辺におけるまちづくりの起爆剤として活用し、総合計画における人口フレームの達成や、本計画の実現化に向けて、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、東山北駅周辺のインフラを整備することが、水上地区などの計画の進展に寄与すると思いますが、進展状況はいかがですかについてであります。東山北駅周辺のインフラ整備については、県道や町道、県河川管理用道路の整備など、道路ネットワークの向上が逐次進められている状況であり、大型商業施設の立地と相まって、東山北駅周辺地域の定住環境としてのポテンシャルは高まってきております。

特に、水上地区につきましては、このような定住環境のポテンシャルの高まりに合わせ、地権者研究会を初め、関係者の御理解、御協力により、民間活力の活用も視野に入れた住宅や、道路ネットワーク整備の検討などを実施しており、計画の実現化に向けて、着実に進展しているものと認識しております。

いずれにいたしましても、東山北駅周辺地域の土地の有効活用を促進し、若者世代等を呼び込むことが、本町の人口減少に歯どめをかけるための重要な施策であると考えておりますので、今後も東山北1000まちづくり基本計画をベースに住宅や店舗開発などを積極的に誘導、促進し、若者世代を初めとした多くの人々に魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。

次に、2点目の御質問のJR御殿場線の利活用推進により、ICカード読み取り機の設置や、運行本数の増加による利便性向上が定住対策には欠かせないと思いますが、今後どのように取り組みを行っていく考えですかについてであります。町では第5次総合計画を策定するに当たり、町民の皆様に事前アンケートを実施いたしました。山北町の魅力と活力を高めるためには、どのような施策が必要だと思いませんかという設問に対し、最も多い解答は御殿場線や富士急湘南バスの運行本数をふやす対策を進めるというものであります。本年3月の一般質問の回答と重複してしましますが、JRに対する要望活動は二つの団体を通じて行っております。一つは、御殿場線沿線、市・町で組織し、私が副会長を務める御殿場線利活用推進協議会です。昨年団体の名称を御殿場線輸送力増強促進連盟から変更いたしました。これは、鉄道会

社に要望するだけでなく、自治体みずからも沿線地域の活性化を図り、輸送増員し、便数の増につなげることを前面に出すために行ったものであります。もう一つの団体は、神奈川県が事務局を努める神奈川県鉄道輸送力増強促進会議であります。この組織の中には、本町が副会長を務める御殿場線部会が設置されております。こちらの団体では、ＩＣカード導入に重点を置き、従来より、会議回数もふやして検討、研究、意見交換を行っております。これは、平成25年12月の山梨・静岡・神奈川3県サミットで神奈川県知事からの提案で、富士山の世界文化遺産登録や、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、沿線地域への外国人を中心とした観光客増加が予想され、鉄道の利便性向上に対する需要が一層高まることが想定されるため、ＪＲ御殿場線、ＪＲ身延線等の利便性向上に向けて、ＩＣカードが広域的に利用できる環境が整備されるよう、3県が連携をして、取り組んでいるものです。

この御殿場線部会では、御殿場線利活用推進会議と連携して、沿線住民にアンケート調査を行い、その声を鉄道事業者や関係機関に伝えることも検討しており、ＩＣカード読み取り機の設置や運行本数の増加に向けて、引き続き全力で取り組んでまいります。

次に、3点目の御質問の保育所に入所希望する乳幼児が全て入所できる環境を整備することが重要を考えますが、環境は整っているかについてであります。保育所は御存じのように、保護者が就労、または疾病の状態にあるなどのため、その看護すべき乳幼児の保育が欠ける場合、保護者にかわって保育を行う施設であり、町では基準に従い、入所の可否の判定をしているところでございます。町内の各保育所には定員があり、平成26年9月1日現在の入所数は、わかば保育園が定員90名のところ71人、向原保育園は定員120名のところ66人、休園している清水保育園は定員60名となっており、全体の定員としては、受け入れに余裕がある状況であります。

しかし、低年齢児の受け入れについては、平成26年9月1日現在、わかば保育園はゼロ歳児3人、1歳児6人、向原保育園はゼロ歳児4人、1歳児11人となっており、これは、認可を受けている年齢別定員に対しては、ほぼ定員を満たしているため、今後希望する全ての低年齢児が入所できる状況ではありません。このため、山北幼稚園とわかば保育園の既存施設を活用する認定こども園の開設に向けて、調整と施設整備により、低年齢児の受け入れ体制を充実するための取り組みを進めているところでございます。現在、町内の保育園に待機児童はおりませんが、子育て世代を対象としたサンライズ山北の完成や東山北1000まちづくり基本計画の推進、原耕地や丸山地区への商業施設や企業の進出により、今後は子育て世代が増加することが予想されております。このため、ゼロ歳児から2歳児までの乳幼児の受け入れや、延長保育、一時預かり

保育などに対応する保育体制の整備が重要であり、さらに平成27年度からの子ども・子育て関係の新制度に伴い、子育て世代のニーズを的確に把握し、保育園の利活用も含めた総合的な子育て支援体制を構築していかなければならないと認識しております。

1 番 川 村 東山北1000の基本計画であります。私はもう今までに3回ぐらい一般質問を行ってきておりますけれども、この基本計画1000にのっかって、計画が実行されることが町の発展に十分寄与すると、私はこれが一番早いんじゃないかなと思っておりますけれども、答弁ありましたけれども、もう一度御確認のためにお願いいたします。

町 長 おっしゃるように、もうこの少子高齢化、特に若い人たちに定住していただくには、やはり設備の整ったところということですので、東山北1000計画が一番その可能性があると思いますので、私は、これは一番近道であろうというふうに思っております。

1 番 川 村 それから、この中でいろいろ住宅の整備でありますとか企業誘致とか、山北町定住総合事業大綱の中に書いてあるわけですが、やっぱり宅地または住宅の供給でありますとか、それからインフラ整備、道路と交通手段の整備、それから子育て支援、それから商業・産業の創成による雇用の場づくりということが、人口を呼ぶことに非常に大切だというふうに考えております。それで、子育て支援は後ほど出てくるんですけども、一つは宅地、または住宅の供給、これもまた一つの大切なことで、答弁にもございましたけど、具体的には水上地区で民間のほうで組合をつくって、進めていただいているということ、私も地元ですから、地元の関係者の方から少し話は聞いておりますので、ここでは詳しくは言わないほうがスムーズに進むのじゃないかなというふうな感じがしておりますので、水上地区については、逐次進めていただいて、土地のほうではですね。

それから、住宅につきましては、あそこにも老朽化した住宅があるんですけども、ここの改善というのが住宅の計画で、例えば優良住宅が何戸、福祉住宅何戸という計画を前にもおっしゃられているんですが、あそこら辺の住宅の整備も一つの活性化していくためには改善していくことが大切だと思うんですが、これはいかがでしょうか。

町 長 おっしゃるとおりで、町の町営住宅の住宅マスタープランにもありますとおり、中堅所得者住宅はまだ足りない、それに対して、低所得者住宅のほうは今後見直していかなければいけないというふうに思っておりますので、そういった意味では、老朽化した町営住宅については、そこを撤去して、地主さんに返すなり、また返した後、さらにそれを利用する方法を町のほうで提案していくなり、さまざまなことがあると思いますけれども、それらを所有者、町が持って

いる場合もございますし、また借りている場合のほうが多いと思いますけれども、それらを含めて、さらにそこに住んでいただける方がふえるような方法をとっていきたいというふうに考えております。

1 番 川 村

一応、水上地区の住宅のほうは、住宅というか土地の利用に関しては、組合をつくっている方々の今、努力されているところですが、住宅に関しましては、やっぱりそのところは、ひとつ明確にして、この一つの一連の事業として、再開発というんですか、やっていかないと、もしあそこが住宅地として開発されたとしても、入り口がもうどうしてもああいう古い住宅ということになりますと、新しい人が寄りつかない、寄りつかないという言葉が悪いんですけれども、入りにくい、見た環境がよくないのではないかなと思いますので、そこらのところは具体的にはこれからどのような御検討をされる予定ですか。

定住対策室長

先ほど町長のほうからお話ありましたように、住宅マスタープランといった中で、あの水上の住宅については、東山北の計画に合わせて、再編を行っていくというような位置づけになってございます。

ですから、水上地区のこれから基本計画といったようなものを検討をしていく中で、水上の団地についてもあわせて再編というような考え方の中で検討をしていくといったようなことになりますので、よろしくお願いいたします。

1 番 川 村

それでは、そういうことは期待をいたしまして、次にインフラ整備ということで、道路と交通手段なんですが、これは従来から言われておるんですが、東山北駅へ入るときの、入るといいますか、東山北駅を利用する方々の利便性が悪いと、御承知だと思っておりますが、岸地区の方々とか、もっと岸の奥のほうの方々には車で御家族の方が東山北まで送ってくるんですよね。そうしますと、721号線にとめたりして、危険もありますし、交通の妨げにもなりますし、ということで、あそここのところも周辺も東山北1000計画の中には、いわゆるイメージというのがありますけれども、御答弁の中ではそのことに関して触れられていないんですけれども、この件については、一応どのようなようになっておるのでしょうか。

町 長

向原1000計画の考え方は、そのとおりでございまして、当初描いておりました計画と若干の変更というか、そういうことはあると思いますけれども、向原バイパスが開通いたしまして、かなりその周りの形も変わってきましたし、また駅前のロータリーということで、それも当然、どこかにつくっていかねばならないというふうに考えておりますので、そういったことも含めて、町だけでどうこうなる問題ではございませんので、その地権者の方も含めて、さまざまな方法を今、やっておりますので、もう少しお時間

1 番 川 村

をいただければというふうに、その件は思っております。

地権者の方々の意向というものがありますので、余り言うのも何かと思うんですけども、東山北駅周辺はバイパス工事にしましても、相当時間がかかった地域でもありますし、そういうことがいろいろ地権者の方とのお話も難しいと思うんですけども、その件につきましては、今、地権者との話を含めて進めているということでございますので、この議会においては、一応それで進めていただくということで、私はこの質問を閉じたいと思っております。

それから、商業・産業の創出ですが、私は今のところ原耕地地区に商業施設ができて、それから丸山にも工場が来まして、柑橘なんかもなかなか活性化しておりますし、トオカツフーズも稼働しておりますので、一応あそこの辺については、大分進んでいるんじゃないかなと思うわけです。特に、私も小田原百貨店の中村店長とは何か知らないけどちょっと知り合いで、行くとよく会って、話をするんですけども、相当売り上げが当初よりも上がっているということで、喜んでおりましたので、大分成果があったのかなというふうに思っております。

それで、話はころっと変わりますけれども、日本創成会議という民間団体が2040年までの間に、全国の898自治体が消滅するということを発表しました。これは、消滅する中には山北町も含まれているということでありまして、非常にショックを受けている方もおられるわけです。私は、これは、そうか消えるのかということじゃなくて、そうならないようにそれぞれの自治体が努力しなさいよということの一つの激励であろうというふうに受けとめるわけですね。そうしないとやっていけないと思うんですけども、これに対して町長はどのようにお考えになりますでしょうか。

町 長

消滅する自治体というショッキングな話が出まして、山北町もその中に入っているということで、そうならないように今一生懸命やっているわけですけども、私は前から数字をずっと見ていまして、人口はもちろんですけれども、とにかく毎月、出生されるお子さんの数をここずっと見ていたんですけども、4年間では残念ながら1カ月6人をオーバーするということがございませんでした。一番少ないときが3人、4人が2回あったかな。あとは、5人、6人のときが大体2、3回というのが大体1年間平均してたときですけども、今回8人というのが2カ月連続で続きまして、今月も6人というような先月も6人というような数字が出ました。

そういったような中で、もし8人ということであれば、96人というような年間、そうすると3クラスになるんじゃないかということと、人口動態のものが横浜銀行のデータバンクの中から毎月出ておりまして、月々で見ますと、山北町がマイナス0.68というような人口減になって

おります。この数字の大体横並びのところを見ますと、大井町もそうですし、伸びてる、プラスになってるところは当然開成町さんあたりですけども、小田原なんかはかなりひどいです。当然ですね、松田はうちよりもさらにひどくて、そういった数字が、ちょうどその数字の悪いところかなり箱根町とかね、そういったところが入っております。しかし、一方では数字はよくないんですけども、大きい小田原市とか大きい市については、そこに載ってございませんので、それはまた見方が違うんだらうと思いますけども、私のほうとしては、そういった少なくとも0.68のマイナスというのは、せいぜい0.4とかそのくらいまでしていかなければ、本当にいつまでたっても危機感から抜けられないということで、そういう意味では一つの目安としては、子供の出生率、赤ちゃんが生まれる数があるところ、目標としてはできれば月8人ぐらいいければいいなというふうに思っております。

1 番 川 村 町長もおっしゃるとおり、私もこの間、町の広報見まして、いつも今まではずっとこの死亡者と出生とこう書いてあるんですけども、いつも死亡者が例えば、うんと多くて出生が2人とか3人とかいうことが続いておったんですが、今回見て、おっ何生まれてるほうが多いよと言って日曜も女房と話をして、いいじゃんなんてことをいっときじゃなければいいなと思うわけですが、これはずっと続いていかなきゃいけないなというふうに思って、これが定住対策の成果であれば私はこれは喜ばしいというふうに思っております。

それで一方、内閣府が8月9日に発表しておりますけれども、農山漁村に関する世論調査というのをやっておりまして、これによりまして、農山漁村の地域住民の37.6%が将来衰退するよというふうに答えてるんですね、それで、理由は、仕事がないが32.7%でこれが一番多い。それから、都市部の住民では、田舎への定住したいよというのが31.6%ありまして、一番多いんですけども、その中で何と一番多いのは20歳代で38.7%あるということですね。だから、若い人も田舎に住みたいと思っている。ではあるんですけども、それでは定住に必要な条件は何かというと、医療機関の存在68%、仕事があること61.6%ということなんです。だから、そういうことがありますんで、そこについてこういうデータについて町長どのようにお考えになります。

町 長 私も、前々から若い人たちがそろそろこういう都会でなくて、こういう田舎というか、こういったところに住みたいというか、そういう願望が多くなってくるのではないかなというふうに思っております。そのきっかけになるのは私は、消費税が10%になるとかなり都会では住みにくいなというのを前から思っておりますんで、10%になるかどうかわかりませんが、そういったのが一つのきっかけだろうというようなことと、それから、やはり今の生活を見

てみますと、別に都会であってもこちらであってもさほど暮らして  
くことについては、大差がないと。情報がこだけ進んでおります  
から、光ファイバーや何かもありますので、そういった意味では問  
題はないと思いますけど、今おっしゃったように、医療機関の問題、  
あるいは働くところこれらは非常に大きな問題だというように思っ  
ておりますので、それなりに対しては、一番いいのはもちろんそれ  
が解決する方法が一番いいんですけども、じゃあ例えば、産婦人科  
を山北に持ってこられるかといったらそれはなかなか難しいという  
のが現実でありますし、あるいは、そういった企業誘致をしてお  
りますけども、そこにストレートで入るとか、正社員として雇われる  
というのはこれもまたなかなか100%可能ではないと思いますので、  
そういった意味では段階的に例えば、臨時であったり、あるいはダ  
ブルワークというか、二つぐらいの仕事を持ちながらやるというよ  
うな、そういったような過渡的なことも必要ではないかというふう  
に考えております。

1 番 川 村

医療機関があるということは、これは必須な条件みたいですが  
けども、例えば山北にも少ないですけどありますし、東山北駅の近く  
にも飛騨クリニックという病院もありまして、車で10分も行けば上  
病院という総合病院もありますんで、それはそんなに大きくはない  
んですけども、ある程度のニーズは満たしているんじゃないかなと  
思うわけです。

それで、雇用の場がなかなかないということは、いたし方のないこと  
でありますけれども、私はここは交通の利便性を改善して、通勤をよく  
すれば前にも一般質問で私言ってるんです。私、東京まで通っていた  
こともありますし、新幹線利用すれば行けますし、小田急を利用すれば小  
田急沿線にも仕事場もありますし、そういうところで職場を持つて  
る人が山北は土地が安いからこちらへ住めばいいんじゃないかと、住ん  
でみようと思うような計画をする。そのためにも、交通の利便性、御殿  
間線のその改善といいますか、利便性をよくするとかそういうことが  
どうしても必要になってくると思う。そういうことに関しては、そこは  
やっていかなきゃいけないと思うんですけど、どのようにお考えにな  
りますか。

町 長

私も、川村議員と全く一緒でございまして、今現在、いろいろな  
動態調査をしておりますと、若い方が例えば、山北あるいは東山北  
に住みたい、あるいは住んでもいいというような希望がかなり、そ  
れも独身の若い人たちが多いというようなことを聞いております。  
ですから今後、結婚前の若い人たちが山北にまず住んでいただいて、  
その次に今度結婚していただいて、次のステップとして一戸建てな  
りあるいはもう少し低いところを住んでいただくというようなこと

を考えておりますので、そういったようなニーズがあれば、最初は単身で住めるような小さいものではございませんけども、少なくとも単身で住んでも十分やっていけるようなそういったニーズがあれば、そういったものも視野に入れながら若い人たちをさらに呼び込んでいきたいというふうに考えております。

## 1 番 川 村

交通の利便性を改善して通勤の便をよくするということを言ってるんですけども、抽象的ですから、具体的に質問いたしますけれども、例えば、御殿場線へのＩＣカード読み取り機の設置ができないのはこれは何ですか。前にも言ったんですけど私はこれいつやったかな、25年の12月に一般質問したのかな、24年の12月のときも一般質問しまして、あのときまだ企画財政課長であられました今の副町長さんが、いろいろ答弁していただいたんですけども、それで、まず私もこの間もう一度見てきまして、御殿場線の御殿場から沼津までは行かなかったんですけど、南御殿場とかなめりまで行ってきましたけども、きちんとしたＩＣ読み取り機置いてありますし、松田や東山北駅で撤去しておる待合室、これもきちんと立派なのが屋根つきの部屋つきの囲いつきのありますし、御殿場から沼津の間は非常にＪＲ東海は力を入れているが、御殿場から国府津の間は力入れていないということで、一つはＩＣカードがほかのことはともかくとして、まずＩＣカードの読み取り機設置ができない理由は何なんだと、知っておられますか。認識しておられますでしょうか、原因を。

## 企画財政課長

ＩＣカードについては、何度も要望させていただいております、そういう部分で私も一番最初に企画課長のときにはおりました。そのときも要望しております、実際に、まず東日本とＪＲ東海さんとのまたがりの利用の部分、特にＩＣカードの読み取りの機械がこちらの近くでいいますと、松田駅にしかないということで、例えばＳｕｉｃａで東京から来たときに、東山北でおりようとしたときにＳｕｉｃａは使えないので、そこで精算をしてそのＳｕｉｃａをまた松田駅に戻ってそのカードを入れて再度リセットしてやり直していただくというような形をとらなくてはできないというようなことで、それについては、ＪＲ東海さん等については、非常に費用がかかるという一辺倒で、なかなかやっていただけない。これについては、ＪＲ東日本さんのほうには先般も、先月うちの町長と御殿場の市長と要望活動の中で意見交換をさせていただいて、実はこういう状況なんだということで、再度、ＪＲ東海さんに対して東日本からも何とか呼びかけをお願いできないかというようなことも申しているんですが、なかなか東海さんのほうは受け入れがないというようなことが大きな問題でございまして、それに基づいてて機器の設置等についても相当費用がかかるというようなことの一辺倒のお

話がある状況でなかなか導入をしていただけないというような状況でございます。

副 町 長 今、企画財政課長がお答えしたとおりなのですが、もっとはっきり言いますと、お金の問題でございます。経費の問題でございます、それとあと、またがり利用という問題です。TOICAというのがJR東海はTOICAというエリアになってまして、それ以外はSuicaですね東日本と。TOICAのエリアで乗って、要するに御殿場線のエリアで乗ってSuicaのエリアでおられることがまたがり利用になるんで、機械が対応できないからとだからできないということで、経費がかかるから。解決方法としてはあるんですお金をかければ、イメージとしては小田急線の海老名駅と相鉄線の海老名駅の関係、国府津駅で一回おりたときに御殿場線のところでTOICAを精算する機械一つ置いて、それから東海道線に乗る東日本用に機械を一個置く。要するに、小田急線と相鉄線というようなイメージで一個一個駅のホームに置けば、その問題は解決できるはずなのですが、膨大な費用がかかるということで、今現在はそれができないということでございます。

1 番 川 村 JR東海の場合は、費用がかかる、費用がかかると言っているけども、結局、費用対効果という民間会社ですけれども、今、松田はあるんですか、ところで、あるんですね。松田にあるんだったら、松田に引けば、あと機械なんかそんなにかからないし、例えば松田まできてれば線ですよ、知りませんが、線だつてつながってると思うんですね、電車走ってるから、どんな線使うんだか知りませんが、機械だつたらそんなに高くないし、例えば、山北だつたら駅が3つありますけど、機械代町が出しましよとそういう話を持っていったらどうなんですかね、回線はだつて松田駅から東山北だつたら東山北へ今電車が来ますよなんてちゃんと放送してるんですよ。回線はつながってますからね、恐らくそんなにお金はかかるっていうのは、そういうところを技術的にきちんと調べて突っ込んでいかないからわからないんじゃないかなんて勝手な想像してるんですけど、そういうことはないんでしょうか。そういうことが一つあるんで、そこら辺のところ、きちっとやってもらうことはどうなんですか。

副 町 長 これは、実は前の瀬戸町長のときから課題ではありました。瀬戸町長は町がお金を出すからやらせろとさんざんJR東海と調整した経過があります。それは、東山北の高校生のための屋根、それからトイレ等の改修、町がお金出すからやらせてくれと、それと同じで、一切JR東海は受け付けません。その辺のところでは理由はわかりませんが、受け付けません。済みません。

## 1 番 川 村

ちょっと話の先を変えますけれども、一つはJ Rに対する要望とかいうことも、結局J Rだって民間会社ですから自分の会社の利益にならないことはやらない。利益の上がることはやらない。話をころっと変えまして、5月26日に御殿場線利活用推進協議会というのが御殿場でございました。そのときにS Lを運行してくれという要望を出したのをJ Rから断られたということで出てるんですけども、J Rには設備がないよということで断られてるんで、私に言わせれば、これはない物ねだりをしてしていると、J R東海に対して設備がない石炭も何もないものを運転士もいないそれをやれということが、どれだけのメリットがあるのと、それから逆に言えば、ここ走らしたときに今の若い人が本当にS Lで喜ぶでしょうか。

S Lというのは、皆さん年とった人は郷愁でいいかもしれませんが、例えば、これ通勤に乗ったとき、山北小山間は、トンネルが7つあるんです。トンネルが7つあって、あれは暖房はききます、お湯沸かしてるからそれ通せば。冷房はきかないんですからね。この夏の暑いときに、窓閉めて7つのトンネル走ったときに誰も喜ばない。そういう要望は私はJ Rにとってもよくないし、実際に住んでる人にとっても前向きな提案ではないと私は思います。だから、やっぱりJ Rにとってもやれる提案、これはやっていく。

例えば、そのときに恐らく話があったんですけども、2013年度に富士山トレインを走らせましたね、J R東海が。盛況だったって話がありましたでしょ。5,000人乗ったという話があった。5,000人乗ったということは、夏、冬、走らせたんですね。冬場で見たら6日間走らせますから、夏、冬で12日間、例えば走らせてるとすれば、5,000人だったと。定員が406名ですからほぼ満員ですよ。満席で走ってる、富士山トレインに。371系というやつ走らせた。371系というのは昔、国鉄がJ Rが新宿まで走らせていたJ Rのあさぎり号371系、あれを走らせた。浜松から御殿場まで来たら5,000人乗ったという、そういうことを言っている。J Rは言っている。

そっちはいいわ、浜松、富士山だから山北にあんまり関係ないから。もう一つ言っていることは、そのとき言ったことは、小田急線のあさぎり号が、あさぎりの乗客数が2013年に6%ふえたと言ってるんです。これは私は、今あさぎり号は沼津まで行ってないんです。御殿場までなんですよ。御殿場までで6%ふえてるとJ R東海何を言いたいのかと思ったら私の勝手な想像ですと、あさぎり号でも走らせるとか小田急入れたらいいんじゃないのと言ってるように私には聞こえるんですけど、これどのようにお考えになります。

企画財政課長

答えになるかどうかわかりませんが、実はことしの12月に御殿場線が丹那トンネルの部分から向こうに東海道が移りまして、御殿場線開通

して御殿場線という名前になって80周年ということで、J R 東海のほうからは、この11月の末の5日間、まさにあさぎり号の371系をラストランの予定だということで、これは浜松駅から松田駅までの折り返し運転を行うということで、既に、プレス発表もされておりますけれども、それに基づいて地域の沿線の方、結局多くても1分停車しかそれぞれ駅しないんですね。それを往復するんですけども、それに一般の乗車券も売るといようなことで、すぐにいっぱいになるだろうといような予想のもとで、うちのほうは、たまたまそのときに産業まつりことしございますので、それにもあわせて、J R 東海さんのほうからお話もいただきまして、産業まつりのP R も J R 東海としては少しパンフ等に入れることも可能ですよといような、今打ち合わせを行っております、そのことを含めて今、川村議員が言われるような部分も一理あるのかなという感じはしておりますが、どちらにしても、これラストランになりますので、これで売却をするといようなことですので、今後、その辺を含めていろいろ先ほど川村議員言われたようにS L なんかそんな難しいものをやらなくていいんじゃないかと。

逆にI Cカード一本に絞って要望していったほうがいいんじゃないかとかですね、いろいろそういう考え方もあろうかと思ひまして、今、町長が御殿場市長のほうといろいろあら療治も含めて、戦略を練っているところでございますので、その辺は今後の参考にしていきたいなというふうに思っております。

1 番 川 村      これから2点言おうと思つてたんですけど、一つがJ R 東海に要望していくことは、今、企画財政課長が言われたとおりで、I Cカード一点に絞ってこればかり要望していくといことが必要んじゃないのと。ほかのことをやる必要はない。とにかく今、ここの住んでる御殿場線沿線の御殿場から国府津、松田まで知らないけど、ここの人にとって、何が大切かといったらI Cカードなんですよ。東海道で乗りかえできたって、先ほど山崎副町長が言われたように、国府津に二つ置けばいいわけですよ、区間内だったらS u i c a だって東海の間だって同じ機械は読めますから。この区間内だったら通れるんですよ。そういうことを、やればいい。そういうことを、一点に絞ってやっていくそれ以外のことはやらないとい一つの方法がある。昔の古いことわざに一念岩をも通すという言葉がありますよね、知ってますよね、年配ですから。それぐらいの気持ちで、やっていかれたほうが、よろしいんじゃないかと思うんです。一つはそれです。いかがですか。

町 長      私も、I C一本に絞ってやっていかなければいけないなというふうに思いますし、そのタイミングというのがあるのかなというふうに思いますので、J R 東海さんは今、リニアのほうで大騒ぎしてお

りますので、そういうようなタイミングを見ながら、神奈川県、オール神奈川で要望しなければなかなかできないということと、技術的には決して問題はないというふうに私たちは認識してるんですけども、なかなか担当者レベルだと全く前に進まないというのが現実でございますので、そもそも要望書で我々が行ったときに、答えが最初から例えば、私もやってあげたいんだけど費用がこれこれこうでと言うんだったらまだ可能性があるんですけど、全くそんな気はございませんの一言ですから、そうしますとなかなかそこから先へ話が全く行きませんので、そういった意味ではI C一本に絞っていききたいというふうには思っています。

1 番 川 村 ぜひ、I C一本に絞っていくということが達成できれば、私は非常に利便性はよくなっていくというふうに私は考えておりますので、地域住民の方からも喜ばれるんじゃないかなと私は思います。ぜひ進めていただきたいと思います。

もう一点は、私が思ったのは、結局あさぎりの6%ふえてますよとJ R東海が言っているということは、J R東海、あさぎりがふえたら利益になるんでしょうかね、それは御存じですか。

企画財政課長 向こうの運営営業部との話の中では聞いてございません。

1 番 川 村 ということは、これまた私が勝手に想像した話をしますとですね、ここから御殿場までは、小田急があるじゃないのと、小田急、走らせればいいんじゃないのってJ R東海言ってるように聞こえるんですよね。例えば、小田急の急行走らせればいいんですよ。松田から入れて、急行がずっと走ってきますよね、走っていくんだけど、松田、小田原間は急行ってたって各駅停車ですよ。御殿場線に入れば各駅停車御殿場まで走らせて、それは新宿のほうへ行くようにすればよい。今、御殿場線に乗っていくのは東山北から乗っても行くと、朝乗るとですね、松田でがらがらになるんですよ。半分以上松田でおられる。松田でおられる人は、小田急線使ってるんですね、もし急行を入れれば松田で乗りかえしなくていいですから、これは技術的にどうかわからないですけど、非常に利便性高まるんですね。

山北の人なんかは、みんなどうしてるかといったら、松田に駐車場借りて、松田へお金を落としてる。この御殿場線が通るようになれば、山北の人は山北に駐車場借りて、山北へ金落とせるということで、よその町へ金落とさなくてよくなるということになるので、ぜひこういう提案もあるんですが、そういうことを要望していくお考えはございませんでしょうか。

町 長 先日、J R東日本とその後小田急さんにも行きまして、いろんな東海さんのことを話しましたが、基本的には東海さんについては小田急さんも余りやりたくないというのが現実なところですから、

それ以上は我々のほうとしても、小田急さんは小田急さんの考えがあるでしょうし、そういった意味では非常に難しいというふうに感じております。

1 番 川 村

大体企業ですから、J R 東海さんがそれぞれ皆よその会社は排他的にこう考えているとすればですよ、知りませんが、すればなかなか行かないんですけど、それはそうとして、山北町あるいは御殿場線沿線の自治体にとっては、この小田急が入ってきて走ってくれるということが、物すごいメリットがあるわけですよ、多少の排他的な考え方があっても、ぜひ何度も何度も足を運んで説得していくというそういう考え方も必要かと思うんですが、行政だけで足りなければ、ほかの民間団体とかほかのところも活用してやっていくとか、そういう手は打つことが、いわゆるこの町の活性化のために、絶対交通の利便性のためによくなっていくと思うのですが、そのお考えはございませんでしょうか。

町 長

一般的には、そういうような考えもあると思いますけども、私も直接聞いたわけではございませんけども、話のニュアンスから私が感じてるところは、J R 東海さんと私鉄が4つ、5つ東になってもかなわないとそういうレベルでございますので、基本的には私鉄が東海さんに言っても、まるでこんな違いがあるところで何言っただというところが雰囲気的にはそんなような状態でありますので、なかなか小田急さんのほうが、あるいはいろいろな私鉄がちょうど神奈川県の方でやりますと、例えば、年間に投資額というのが大体私鉄さんが毎年乗客のための新しい投資をするのが40億とか、80億とかというような投資をしますけども、せいぜいそんな規模なんですよね、そこにいきますといきなり数千億というようなリアのあれですから、桁が違い過ぎちゃって、現実問題としては余りその話題を小田急さんが出したがらないというのが何となくわかるような気がいたします。

1 番 川 村

それでは、次に、子育て支援・子供の教育環境についての質問です。

最初に子育て支援は、山北の子育て支援センターはいいということを通告書にも書きましたけども、私も、実際に内容を見せていただいたら、素晴らしいことで、保健師さんがいて対応してあげていろんな悩み、こんなことも子育ての人とか妊婦の方は大変なんだなということがわかりまして、それを無料でやっているということは、私は、山北町にとっては非常に誇りに思う事業だと思うわけです。これはぜひまた続けていていただきたいと思うんですけど、それはそれといたしまして、前回、平成24年12月で保育所の質問をいたしまして、保育所の入所状況もホームページで町民の皆さんに明確に示してくださいと、内

規だけじゃわからないじゃないですか、町民に人が見たらわかるようにしてくださいよという質問をいたしまして、そういたしますというようなことをちょっと答弁されたような、前の課長さんがね、思うんですけれども、それで何が変わってるかなと思って昨夜ちょっとホームページを見てみましたら、保育にかける条件というのが書いてありまして、国が決めた基準の5つか6つそれだけ書いてありまして、その頭に保育所へ入所できる基準の該当事由により、保育の実施機関の希望に沿えない場合がありますので、あらかじめ御了承ください。最初から断りのやつが、冒頭に一番に入ってるんですね。これって何なんですか。希望に沿えない場合というのはどういうことなんでしょうか。

福祉課長

恐らく、希望に沿えないというところは、御質問ありましたように、入所の基準に沿っている方であっても、人員の定員数があったりする場合には、希望に沿えない場合もあるということのお話の一つあると思います。困ってらっしゃる人いても、受け入れ人数については限りがある定員園児や、そういう部分には、そのようなお答えをさせているところもございます。

1 番 川 村

あのときも私も言ったんですけど、こういうふうに書いてあるということは、わかんないわけですよ。聞きにいかなきゃいかんわけですね、聞きに行くっていうことは、これは何ですか福祉課の担当者の裁量に委ねられると思っても、思われてもいたし方ないようなこの書き方だと私は思うんですよ。私の判断ですけどね。私の考えだけですから。もし、そういうことが定員だけだったら定員がいっぱいの場合には、だめですとはっきり書けばよろしい。なぜそう書かないんですか。

福祉課長

済みません。そのホームページの部分については、再度確認をしながら、その今おっしゃられたような、誤解を招くようなまた、窓口のほうに直接担当に聞かなければわからないようなそういう表示の仕方は、見直しをしなければいけないと考えますので、この後、済みませんが確認させていただいて、わかりやすいように表示をさせていただきたいと思います。

1 番 川 村

子育て支援というのは、町長の政策の目玉政策でありますし、第5次総合計画の二つの大きなプロジェクトの中の一つに入ってるわけですよ、だからこれは、町長がこのようにやると言って掲げたことで、第5次総合計画にも入ってることは、私は町の職員はそれをきちんとやっていかなければいけないと。それで、前の課長さん変わっておられますけれども、前の課長さんは、ちゃんとやりますと答えられている。それと、あのときにも言ったんですけども、今、定員とおっしゃられましたけども、厚生労働省から出てるので、保育所ですからね、幼稚園じゃないですから、いつ子供が生まれる

かわかりませんから、定員の20%までオーバーよろしいんですね、あの通達によりますと、これについても私が言いましたら、前の課長さんはそれは承知しておりますとそう答えてるんです。

定員ということであれば大丈夫なんですね、それからある時期、10月だか11月だか過ぎれば最大25%までいいとそこまで通達が出てるんですよね、定員、定員と言われますけれども、定員はそういうことでそこまで御存じなんでしょうか。私が民間の方の保育所の園長やってる方が知り合いがありまして、私が24年12月に質問したときに、それ聞きましたら、川村さん。大体20%オーバーいいんですよ、そこまで言われましたから、民間会社はそういうことでやっている。そういう意味では、それは今の課長さんはそれ認識しておられますか、今の私が言ったこと。

福 祉 課 長

町長の答弁にもお話ししましたが、今の町の保育所の定員については、余裕がございますというふうに答弁させていただいております。ただ、低年児のゼロ歳、特にゼロ歳の部分については、以前川村さんの御質問のときの平成24年12月のときにも定員の部分について、対応する子供の年齢に応じての保育士の割合についても御説明させていただいてるようなんですが、低年児特にゼロ歳児は、3人に1人保育士をつけなければいけないという部分で、その保育士の部分を今、向原保育園ですと今、4名ということですが、この先10月までにあと2人受け入れます。それも2カ月、3カ月の子供たちばかりです。つまり、哺乳瓶を必要とする方たちが全部で6人いるんですね。そういう中でやはり保育士の部分をそこは補充をして何とか対応していますが、定員というだけではなくて、保育士への対応それから、わかば保育園のほうにしてみますと、ゼロ歳児は3人まで受け入れる施設ですが、過分ありますので受けられません。

1 番 川 村

それは、わかってますけど、私が言ったのは20%まで超して受け入れる覚悟があるのかということ聞いたんですけど、それ答えてないからいいんですけども、あと、これからは低年齢の若い人が出てきますから、若者を入れてきますから低年齢の生まれたすぐの方とか、そういう保育のニーズというのが必ず出てくる。それに対して3歳以上だったら場所ありますよとかゆうのじゃなくて、ゼロ歳、2歳までが大変なんだからそのところを拡張していく、拡充していくというそういう政策が必要だと思うんですよ。それを今後取り入れていく必要ありますか、まずそれだけ確認しておきます。

町 長

ですから、山北幼稚園とわかばのところを認定こども園にして、そしてわかばのほうにゼロ歳から2歳までの受け入れ体制を拡充したいというふうに町のほうとしては、考えております。

1 番 川 村

ぜひ、今も言いましたけれども、これから定住対策がやってくる

ということについては、子育て支援絶対このゼロ歳から2歳の拡充と交通の利便性ということをぜひ取り組んでいただいて、本当に町が発展するようにやっていただくということをお願いいたしまして、質問を終わります。